

## 「神と人とファラオ 古代エジプトの美」展

2004年2月14日[土]－4月4日[日]

オーストリアのウィーン美術史美術館は、ハプスブルク家歴代の皇帝たちが蒐集した膨大な美術品を擁する、古都ウィーンに相応しい規模と風格を備えた世界有数の美術館です。中でもピーテル・ブリューゲル(父)のコレクションは白眉とも言え、並ぶものの無い質と量を誇っており、その評判を耳にされた方も多に違いありません。

本展覧会は同館の膨大な収蔵品の中から特にエジプト美術に焦点をあてたものです。美術史美術館総長であり古代エジプト学の権威として名高いヴィルフリート・サイヘル博士の指揮の下、同館スタッフが総力をあげて取り組んだプロジェクトの成果なのです。

展示構成は、3つの章に分かれます。第1章は「神とファラオ」と題し、王や王族達にまつわる品々が並びます。第2章は「古代エジプト人と生と死」。棺や護符、ミイラ、パピルスなど、古代エジプト文化を代表するもので構成されます。最後の章の「古代エジプト人の生活」では、素朴さと精巧さが同居する土器や装飾品などをご覧いただけます。140点あまりの貴重な展示物とおして、約4000年にわたって育まれた古代エジプト文明の持つ多様な側面を味わっていただけるでしょう。

展示ケースの中で静かに眠る品々が放つ時を越えた輝きは、地理的にも歴史的にも遠い世界に生きる私達に、時には王権や神官層といった社会構造を明らかにしてくれたり、時には宗教や信仰といった精神世界の深さを知らしめたり、さらには当時の人々の日常生活までも垣間見せてくれるに違いありません。それらは遙かな文明が育んだ豊穡な文化を今に蘇らせてくれると同時に、いつの世も変わらぬ人間の生の営みの尊ささえも教えてくれるでしょう。

「神と人とファラオ 古代エジプトの美」展。永遠の生を目指した古代エジプト文明に思いを巡らせ、古代エジプト美術の精華を堪能していただけるまたとない機会となるに違いありません。(ly)



ホルエムヘプ王とホルス神の座像(紀元前1343-1315年)



パディアセトの内棺(紀元前660年頃)



カバの像(紀元前2000年頃)